

どろろ

道路

きず

傷ついた

ちいき

地域の「血管」

けっかん



液状化現象で大量の土砂が噴出し、通行できなくなった道路（千葉市提供）

道路は、わたしたちの生活を支える上でたいへん大切なもので、地域の「血管」ともいわれています。

千葉県の道路は、すべての長さを足すと約4万キロメートル、およそ地球1周分の長さにあたりますが、地震や液状化で、主な道路だけでも45か所が被害を受け、通行できなくなっていました。特に液状化の被害が大きかった千葉市と浦安市では、噴き出した土砂が小学校のプール500杯分（約18万立方メートル）に

ものぼりました。

道路が使えないと、消防車や救急車も、すばやく駆けつけることができません。

また、まちの商店に品物を運ぶこともできません。

地域密着の優位性

で素早く対応

地震が起きてすぐ、県内各地の建設企業は、パトロールを行いました。地元ならではの土地勘を活かして、わずか1時間ほどで被害を調べて、

写真をつけて役所に報告できました。

大津波でたくさんのがれきが出た旭市では、片付けたがれきを置いておく場所が不足してしまいました。

そこで、地元の建設企業が、急きよ自分たちの会社の敷地を提供して、がれき置き場にしていました。

千葉市のある建設企業は、道路の復旧作業に三日三晩、休まず作業にあたり、震災の次の日には、路線バスが走れるようになりました。当時を振り返って、ど



道路復旧作業は夜間も行われた（船橋市提供）

の地域の建設企業も「人
や物が流れる地域の血管
として、道路の復旧は何
よりも最優先にしなければ
ならない。だから、
必死で取り組んだ。」と
口々に話していました。